

成果指標				
成果指標	伐倒材積 × 計画材積 × 100			
指標設定の考え方	森林整備計画に定める計画材積と伐倒材積を測定することにより効果を測る。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	100%以下	100%以下	0	0
実績	90%	100%以上	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	枯損木伐倒すべき材積が増加している。山林保全の観点から伐倒駆除事業の継続が必要と思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	空中散布区域内の枯損木伐倒により、5月下旬に実施した薬剤空中散布の効果を一層高め、健全松林への被害拡大の防止を図るための効果的な事業であることから、継続して事業を展開する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題